



京 都 市 勧 業 館

みやこめっせ

第33期 事業報告書

(自令和7年4月1日 至令和8年3月31日)

1 株式会社の現況に関する事項

1-1 事業の経過及び成果

令和7年度は、第6期指定管理協定の初年度であり、あらたな協定のもと、社員全員が目的志向、顧客志向、収益志向を意識し、業務にあたってまいりました。訪日外国人客が4,268万人で過去最高と公表されているとおり人流は活発で、勧業館への来館者数も100万人を超え、ようやくコロナ禍前の水準に復活しました。売上も伸びており、本来の勧業館の姿を取り戻せたと実感できるようになりました。一方で、ウクライナに加えて中東情勢の悪化等世界情勢の不安定な状況は続いており、燃料費の高止まりや物価の上昇、労務単価の上昇、また、大規模設備改修工事に伴う施設の利用制限等、当社の経営にとっては厳しい環境が続きました。

そのような状況の中、展示場部門では、催事・イベントの計画段階から主催者とのコミュニケーションを重視し、主催者をしっかりサポートすることに注力してまいりました。中でも利用の打合せ時に、搬入・搬出については無理のない計画を提案し、安全を確保したことが結果的に会社の収益増にもつながったことは大きな収穫でした。

伝統産業ミュージアムにおいても、これまでの取組を充実強化し、2回目となる公募展も素晴らしい作品が寄せられ、魅力ある作品展を開催することができました。前回に続き今回も一般来館者に投票いただく「オーディエンス賞」を設けましたが、関係者の来館の促進につながるるとともに、作品展を盛り上げる大事な要素となりました。またミュージアムでは、プロデュース機能の強化にも取り組んでおり、ふるさと納税の返礼品提供事業者として登録し、富裕層向けの誂え工芸品をコーディネートする等新しいビジネスモデルも形になりつつあります。

ミュージアムショップでは、恒例となったショップ企画展「珈琲とうつわ」、「にゃんと工芸」等の売上が好調であったこと、堅調なインバウンドが売上を後押ししたことにより、商品売上は当初予算を上回ることができました。また、つくり手にスポットを当てたオンラインショップのあらたな展開も好評で、売上増につながったと考えています。記念品の受注販売については、昨年度から継続して大阪・関西万博のオフィシャルグッズの制作を受注することができ、大きく売上を伸ばすことができました。

地域の活性化の取組も、社内プロジェクトを立ち上げ実施しました「岡崎マルシェ」、音楽イベントの「ライブスクエア@みやこめっせ」は定番のイベント

として認知されつつあります。また、今期初開催の物販イベント「KYOTO コーヒー・チョコレートフェスティバル」には大勢の方にお越しいただき、岡崎エリアの賑わいの創出に貢献できたものと考えています。

施設・設備面では、特に高木の剪定、駐車場を案内する屋外看板の照明のLED化、荷捌き駐車場を中心とした路面ラインの引替え等外構の工事を行いました。これにより美観だけでなく、安全面も向上したと考えています。

(1)業績

物価の上昇、労務単価の上昇等厳しい状況にあったものの、施設利用料収入、ミュージアムにおける伝産品販売促進売上等、会社全体の売上高が大きく伸びたこと、また、新たな指定管理期間の開始により京都市に納付する施設負担金が見直されたこともあり、営業利益をプラスとすることができました。

展示場部門については、京都市の改修工事のため使えない(貸し出せない)面積が稼働率にして約7%あり、難しい運営となりましたが、下半期には各種学術会議等での利用が多かったことから、付属設備利用料や時間外施設利用料等の収入が好調で、稼働率は目標の53.30%にわずかに届かなかったものの施設利用料収入は563,711千円(前年度比+39,053千円/107.4%)となり昨年度を大きく上回る実績をあげることができました。

また、伝統産業ミュージアムについては、観覧料収入は目標に届かず13,369千円でしたが、免税売上を含む商品売上は76,582千円(前年度比+3,376千円/104.6%)、大阪・関西万博のオリジナルグッズの受注で好調だった伝産品販売促進売上が56,173千円(前年度比+21,119千円/160.2%)となる等、堅調なインバウンド効果もあり販売事業が好調に推移しました。また、無料エリアを含めた来館者数も165,248人(前年度比+7,473人/104.7%)となり、コロナ禍前の水準まで回復したと考えています。

(2)損益

これらにより、会社全体の売上高についても、812,901千円(前年度比+55,229千円/107.3%)と昨年度を大きく上回り、京都伝統産業ミュージアムの運営を担うようになって初めて売上高が8億円を超えました。また、施設負担金の減(145,000千円→95,000千円)等、売上原価が減少(前年度比△24,218千円/89.4%)したこと、販管費に関して、人件費及び管理委託費は増加しましたが、水道光熱費が抑制(前年度比△14,202千円/86.8%)できたことから、営業利益は50,800千円(前年度比+64,070千円)となりました。

また、営業外損益については、入札の実施により自動販売機手数料収入が増加(前年比+4,250千円)したこと等から3,548千円となり、経常利益は54,348千円(前年度比+59,166千円)となりました。

今期は、特別損益については発生がありませんので、当期純利益は53,929千円(前年度比+58,927千円)となり、2期振りの黒字決算となりました。

【参考】

区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
1 株当たり当期純利益(円)	9,403	1,233	△2,777	29,961
総資産(千円)	741,412	757,188	774,321	822,741
純資産(千円)	461,251	458,071	452,262	506,192
1 株当たり純資産額(円)	256,250	254,484	251,257	281,218

(3) 営業状況

ア 展示場等年間稼働率等

面積稼働率は、目標の 53.30%に対して 53.25%（開催件数 341 件）※¹ となりました。これについては、上半期は、2 年振りで全館利用のスタートアップカンファレンスのご利用がある等順調でしたが、改修工事等による利用制限等もあって利用が伸び悩んでいた下半期に、自主企画事業との共催で大口の利用を獲得する等の工夫により、目標まであとわずかのところまでこぎつけました。月別では、文化庁主催のイベント「ミュージックアワードジャパン」がロームシアター京都で開催され、その楽屋としてみやこめっせを利用いただいたこと等もあり、5 月の稼働率が 66.79%と最も高くなりました。直前のお申出であり調整が必要でしたが、これは岡崎エリアの特性が現れたありがたい事例でした。

また、利用面積が 1 万㎡以上の新規顧客は全件数の 2.6%（前年度 1.9%）となっています。今後も主催者に寄り添い、主催者の意向に可能な限り柔軟に対応する運営を行うことでリピーター化につなげてまいります。

今期の年間来館者数は 1,039,940 人※² と 100 万人を突破し、ようやくコロナ禍前の水準に復活しました。

※¹ 6 年度：稼働率 49.21%/開催件数 360 件

※² 6 年度：来館者数 980,904 人

イ 伝統産業ミュージアム事業

- ① ミュージアム観覧料収入は 13,369 千円※となり、目標には届かなかったものの、昨年度からは増加（+418 千円/103.2%）しています。堅調なインバウンドに加え、自主事業として実施した公募展等の取組が観覧料収入の増加につながりました。

※ 観覧料収入と有料観覧者数

6 年度：12,951 千円/30,564 人 7 年度：13,369 千円/31,664 人

- ② ミュージアムショップ店舗においては、「珈琲とうつわ 5th」、「にゃんと工芸」等のショップ恒例の企画展が好評であり、堅調なインバウンドにも後押しされ、売上は 66,012 千円（前年度比+1,497 千円/102.3%）となり

ました。また、つくり手にスポットを当てたあらたな展開のオンラインショップは10,570千円（前年度比+1,879千円／121.6%）となり、順調に売上を伸ばしています。

- ③ 学術会議や周年事業の記念品に京都の伝統工芸品の活用を提案する取組に関しては、昨年度に引き続いて大阪・関西万博のオフィシャルグッズの制作を受注できたこと等により販売額を伸ばすことができました。
また、観光客増加の影響を受け、オープン時からプロデュースを手掛けている京都東急ホテル東山内のショップ「Craft Editions produced by Kyoto Museum of Crafts and Design」への商品提供も順調に推移しており、これらを合わせた販売売上は56,173千円（前年度比+21,119千円／160.2%）となりました。
- ④ 京都の伝統産業を体験・見学できる「工房コンシェルジュ」事業については、BtoCの受付を終了したことを受け、事業収入は2,862千円（前年度比△2,000千円／58.9%）と昨年度を下回りました。これにつきましては、伝統産業の普及啓発事業「クラフトコンシェルジュ」の一部として位置付けており、今後は高級ホテルと連携した富裕層をターゲットにした体験メニューの開発を予定しています。

ウ 駐車場利用料収入

京都市京セラ美術館をはじめ、岡崎公園でも多くのイベントが開催されており、岡崎エリアの賑わいは回復していると感じていますが、駐車場利用料収入は、71,989千円（前年度比△5,302千円／93.1%）となりました。これは令和5年度と同程度となりますが、駐車場については積極的に増収のための取組を実施してはならず、その年度の結果として捉えています。

1-2 当該事業年度における主要な事業内容

- (1) 京都市勧業館みやこめっせ事業
展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの賃貸及び管理運営、催事の企画運営サービス、駐車場管理
- (2) 京都伝統産業ミュージアム事業
京都伝統産業ミュージアムの運営、ミュージアムショップ及びオンラインショップ等による伝統工芸品の販売、企画展の実施、京都市受託事業の実施
- (3) 自主企画事業
産業振興、文化向上、地域貢献に資する事業の実施

1-3 当該事業年度における主要な営業所及び組織、使用人の状況

(1) 主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

(2) 使用人の状況（令和8年3月31日現在）

区分	従業員数 (人)	前事業年度 末比増減(人)	平均年齢 (歳)	平均勤続 年数(年)
男性	18 (6)	1 (2)	44	7
女性	31 (17)	±0 (±0)	49	7
合計又は平均	49 (23)	1 (2)	48	7

注 () 内は臨時社員の内数、特定イベントの臨時要員を除く。

1-4 主要な借入先

(令和8年3月31日現在)

借入先	借入金の残高(円)
株式会社三菱UFJ銀行	10,906,000
株式会社京都銀行	10,906,000
京都信用金庫	10,883,000
京都中央信用金庫	10,728,000
合計	43,423,000

2 株式に関する事項

2-1 株式の状況

発行可能株式の総数 4,000 株

発行済株式の総数 1,800 株

2-2 当事業年度末の株主数

9 名

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6

(次ページに続く)

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
一般社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱UFJ銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合計	1,800	100.0